

Unit 3 わたしの好きなこと

本単元で育成する資質・能力

主体的に学ぶ力 他者とかかわる力

① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

1 単元観

学習指導要領においては、イ「話すこと」(イ)「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」、ウ「読むこと」(イ)「書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。」とある。

本単元は、一般動詞を使って英語で問答ができること、本文の内容を十分理解した上で、音読ができること、を目標とする。転校生ディーパの自己紹介から始まる本文は、名前、出身、年齢に加えて、自分がどんなことをするのが好きかを紹介している。聞き手はそれらを聞き、いろいろな質問をするという展開になっている。ディーパの出身国が、昨今、経済、文化、音楽など多方面で国際社会の関心を集めているインドであること、また、中学生の身近な関心事である「部活動」について、生徒同士が語り合う設定になっていることで生徒の興味・関心を高める単元となっている。

言語材料としては、一般動詞の肯定文、疑問文と応答、否定文が本文に豊富に含まれており、自己表現に必要な一般動詞を早期に数多く導入することで、本文を参考に自己紹介したり、尋ね合ったりする言語活動が可能である。

2 生徒観

本学級の生徒は、英語を話すことに対しては意欲的で、生徒同士で、教え合いをすることもできる。しかし、アンケートによると読んだり書いたりすることは苦手である。英語を積極的に使おうと思っても、ミスを恐れて消極的になることもある。定期テストにおいては、家庭学習のやり方がわからず試行錯誤を繰り返しながらテストに臨んだ生徒もおり、自分にあった学習方法の定着が急がれる。そのために、授業で学習のやり方を数多く紹介し、自分で実際にやってみることで自分にあった方法を見つけさせたい。また、難聴生徒であることを考慮にいれ、大きな声で口元を見せながらはっきりモデルリーディングを行う。

3 指導観

本単元の言語材料である、Do you play…?を生徒がしばしばAre you play…?とするのは、言語習得過程ではよくある典型的な誤りである。多くの例文を引用して、口頭と筆記でドリルを行うなど繰り返し指導することで、生徒に自己修正できる力を付けさせたい。また、言語活動では、本単元の自己紹介と質疑応答の場面を、自分たち自身に置き換えて言わせる活動を通して、生徒の自己表現への意欲を積極的に引き出していきたい。自己表現のモデルとなる本文に関しても、音声を記憶に残りやすくするため大きな声で音読させたい。また、音声によるアプローチの場面では、大きな声で行い、本文音読や板書使用の場合には、必要に応じて英文に読み方を書き視覚援助を行いたい。

② 単元の目標と身に付けさせたい力について

1 単元の目標

- (1) 自分が好きなことや習慣にしていることを積極的に話したりたずねようとしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 自分の好きなことや習慣について書かれた本文を積極的に音読しようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (3) 自分の好きなことや習慣について話すことができる。(表現の能力)
- (4) 自分の好きなことや習慣について書かれた本文を音読することができる。(理解の能力)
- (5) 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の形・意味・用法を理解し問答を行うことができる。
(言語や文化についての知識・理解)
- (6) 一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の形・意味・用法を理解し英文を書くことができる。
(言語や文化についての知識・理解)

2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 見方や考え方	ウ 技能	エ 知識・理解
① 自分が好きなことや相手が習慣にしていることを積極的に話したりたずねようとしている。 ② 自分の好きなことや習慣について書かれた本文を積極的に音読しようとする。	①自分の好きなことや習慣について話すことができる。	① 自分の好きなことや習慣について書かれた本文を音読することができる。	①一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の形・意味・用法を理解し問答を行うことができる。 ②一般動詞の肯定文、疑問文、否定文の形・意味・用法を理解し英文を書くことができる。

3 本単元で育成を目指す資質・能力

(1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力		特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知	①学習したことを自ら語れる力(知の構造化)	○
思考力	思	①根拠をもとに、正しい判断をする力(論理的思考力)	—
		②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力(批判的思考力)	—
		③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力(言語力)	○
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とかかわる力	他	①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	○
		②他者とかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	—
社会貢献力	社	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
		②自信を持つ力	—

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	一般動詞の肯定文, 疑問文, 否定文の形・意味・用法を理解し問答を行うことができる。
知-①	一般動詞の肯定文, 疑問文, 否定文の形・意味・用法を理解し英文を書くことができる。
思-③	自分の好きなことや習慣について話すことができる。
主-①	自分が好きなことや相手が習慣にしていることを積極的に話したりたずねようとしている。
主-①	自分の好きなことや習慣について書かれた本文を積極的に音読しようとする。
他-①	自分の好きなことや習慣について書かれた本文を音読することができる。

③ 単元計画

1 単元の全体像 (I : 学習内容, II : 学習活動, III : 単元として生徒に身に付けさせたい力)

自分の好きなことや習慣的に行っていることを, 本文の音読やペアワークを行うことで, 自己表現できるような力を身につける。

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
あなたは, ALT のアンナ先生に自己紹介をすることになりました。自分が好きなこと (嫌いなこと), すること (しないこと) を必ず入れて 5 文以上の紹介文を作りなさい。	A 自分が好きなこと (嫌いなこと), すること (しないこと) を 5 文以上で書いている。
	B 自分が好きなこと, することを 5 文以上で書いている。
	C 自分が好きなこと (嫌いなこと), すること (しないこと) を 4 文以下で書いている。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	<input type="checkbox"/> 本時のめあて <input checked="" type="checkbox"/> 学習内容	評価				
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】 ※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題の設定	1	転校生の自己紹介の本文を音読する。	○		○		ア-② ウ-① (活動の観察)
情報の収集	2	I like~ I play~を使って自己紹介の文を言う。	○	○			ア-① イ-① (活動の観察)
課題の設定	3	意味のわかった本文を, アイコンタクトを意識しながら言うことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 習慣的にすることや趣味についての会話文を音読する。	○		○		ア-② ウ-① (活動の観察)

情報の収集	4	相手が習慣的にしていることや趣味についてたずねたり答えたりする。		○		○	イー① エー① (活動の観察)
課題の設定	5	習慣的にすることやしないことについての会話文を音読する。	○		○		ア－② ウー① (活動の観察)
情報の収集	6	相手が習慣的にしていることやしていないことについて話す。		○		○	イー① エー① (活動の観察)
実行	7	パフォーマンス課題に取り組む。		○		○	イー① (活動の観察) エー② (ワークシート)
振り返り	8	単元テスト				○	エー② (ワークシート)

④ 本時の学習

1 本時の目標

意味のわかった本文を、教師とアイコンタクトを保ちながら言うことができる。

2 本時の評価

評価規準 (評価の観点)	評価基準	
ア－① 自分の好きなことや習慣について書かれた本文を積極的に音読しようとする。 【主－1】	A	アイコンタクトを保ちながら本文を言うことができる。
	B	アイコンタクトを意識して本文を読むことができる。
	C	本文を読むことができる。

評価規準 (評価の観点)	評価基準	
ウー① 自分の好きなことや習慣について書かれた本文を音読することができる。 【他－1】	A	パートナーと協力して本文を読むことができる。
	B	自力で本文を読むことができる。
	C	視覚援助をもとに本文を読むことができる。

3 準備物

ワークシート

4 学習展開 (3 限目/8)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学 習 活 動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
導入 (5分)	1 英語係による号令 あいさつ 2 Warming up 前出の本文を音読する。 3 本時のめあてを確認する。	○3の倍数を交互に言う。 ○ペアで一人が日本語を、一人が本文を言う。				
【本時のめあて】意味のわかった本文を、教師とアイコンタクトを保ちしながら言うことができる。						
展開 (40分)	4 新出単語の導入 5 本文理解 (J)…じっくり考える) 6 本文を音読する。 (K)…繰り返し挑戦する) 7 教師を見て英文を言う。 (H)…はっきり表現する)	○フラッシュカードを読ませる。 ○黙読により教師の質問の答えを探させる。 ・登場人物は誰と誰か。 ・ディーパは家で何を練習するか。 ・ディーパはギターを弾くこと以外に何を するか。 ○まず自力で読ませる。 ○教師の後について読ませる。 ◆必要に応じて読み方プリントを使用させる。 ○ロールプレイで読ませる。 ○アイコンタクトを保たせる。 ○暗唱させる。			自分の好きなことや習慣について書かれた本文を積極的に音読しようとする。 【主-1】 自分の好きなことや習慣について書かれた本文を音読することができる。【他-1】	
まとめ (5分)	8 本時のまとめをする。 9 英語係によるあいさつ	○肯定的に本時についてのコメントを行う。 ○他の発表を聞いて考えたことやわかったことを書かせる。				